

〔課題名〕 わが国牛肉需要とその国際化対応に関する提言

〔報告書No.〕 74

〔研究年度〕 平成6年度

〔研究者〕 菊池 守也, 貴船 和多男, 天間 征

本報告書は、平成6年度自主研究課題「わが国牛肉需給とその国際化対応に関するとりまとめ」の成果を底本としている。これより先、平成3年度から5年度までの3年継続研究として、「わが国牛肉需給とその国際化対応に関する調査研究」が当所重点研究課題に取りあげられ完了した。この機会をとらえ、過去3年間の研究から得られた知見および従来の研究で取りあげられなかったが重要と考えられる新たな問題に対する分析を加えて、平成2年の牛肉輸入自由化以来危機的状況におかれている国内牛肉産業の新たな発展方策の解明を試みた。

当初の研究構想では、子牛生産・素牛育成、肥育、と畜、枝肉処理、食肉加工、消費という全過程を再点検し、わが国牛肉産業再生のための問題とその解決のために必要とされる総括的な政策提言を行うことを意図し、本書でみられるような新たな聞き取り調査を実施した。しかし、肉牛・牛肉の生産・流通・消費の各分野とも極めて変動的であり、ガット・ウルグアイ・ラウンドの決着とも絡み、わが国の牛肉産業が熾烈さを増す国際的競争環境下において、どのような地位、役割を将来担っていくべきかが極めて予測しがたい状況にある。

そこで本報告書では、新しい経済秩序を求めて、一種の混乱状態にあるこの産業に対し、現時点で安易な包括的な「政策提言」を行うことは適切でないという判断に立ち、来るべき時期に備えての基礎的な資料の整理と提言のためのフレーム・ワーク作成に止めざるを得なかった。提言のためのフレーム・ワークは以下のようなものである。

- 1) 近年における肉用牛の飼養動向
- 2) 肉牛肥育経営の収益性の悪化
- 3) 枝肉格付けの状況
- 4) 牛肉市場の変貌
- 5) 国産牛肉の課題
- 6) 消費構造の変化
- 7) 小売業界の対応方向
- 8) 豪州および合衆国のと畜コスト
- 9) と畜場数およびと畜経費等